呉工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	LHR Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0050	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 0
開設学科	環境都市工学科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1
教科書/教材	使用しない		
担当教員	蒲地 祐子		

到達目標

1．ホームルーム活動を通して，望ましい人間関係を形成し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
2．学校行事を通して，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養い，協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。
3．SAPARなどの活動を通して，自身のキャリアデザインを明確化できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ホームルーム活動を通して，率先して望ましい人間関係を形成し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を十分に発揮できる。	ホームルーム活動を通して，望ましい人間関係を形成し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を持っている。	ホームルーム活動を通して，望ましい人間関係を形成できない，あるいは，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度がない。
評価項目2	学校行事を通して，率先して集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養い，協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的，実践的な態度を十分に発揮できる。	学校行事を通して，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養い，協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的，実践的な態度を持っている。	学校行事を通して，集団への所属感や連帯感を深めることができない，あるいは，公共の精神を養い，協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的，実践的な態度がない。
評価項目3	SAPARなどの活動を通して，自身のキャリアデザインを明確化し，目標に向かって実践できる。	SAPARなどの活動を通して，自身のキャリアデザインを明確化できる。	SAPARなどの活動を通して，自身のキャリアデザインを明確化できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	ホームルーム活動や学校行事，呉高専キャリア教育プランSAPARの活動等を通じて，望ましい人間関係の構築，集団への所属意識や連帯感を深め，公共の精神を養い，諸問題を解決し協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てるとともに，自らのキャリア形成について考える。
授業の進め方・方法	年間の計画はこのシラバスに記載のとおりですが，詳細は半期ごとに計画し教室内に掲示します。
注意点	

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	前期活動計画・各種委員選出	
		2週	今年度の目標	
		3週	クラス活動	
		4週	心と体の健康調査・生活習慣調査	
		5週	クラス活動	
		6週	体育祭について	
		7週	中間試験について	
		8週	2年合同HR（道徳）	
	2ndQ	9週	クラス活動	
		10週	クラス活動	
		11週	クラス活動	
		12週	クラス活動	
		13週	クラス活動	
		14週	期末試験について	
		15週	夏休みの生活について	
		16週	クラス活動	
後期	3rdQ	1週	校長訓話	
		2週	クラス活動	
		3週	2年合同LHR（DV講演）	
		4週	球技大会について	
		5週	高専祭準備	
		6週	クラス活動	
		7週	中間試験について	
		8週	SAPAR自己分析1	
	4thQ	9週	クラス活動	
		10週	SAPAR適性検査	

		11週	クラス活動	
		12週	SAPAR自己分析2	
		13週	クラス活動	
		14週	学年末試験について	
		15週	1年を振り返って	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	後11
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	3	前5,前7,前14,後7,後11,後14
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	後11
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	前5,前8,後11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	20	0	20
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	80	0	80